

OHCA特別委員会企画オープンミーティング ～ JAAM-OHCA レジストリの展望と課題～

日本救急医学会

院外心停止例救命のための効果的救急医療体制・治療ストラテジの構築に関する

学会主導研究推進特別委員会（OHCA特別委員会）

内容：

座長

森村尚登（横浜市立大学大学院医学研究科 救急医学，OHCA特別委員会委員長）

石見拓（京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター，同委員）

演題

1. レジストリの目的と展望：石見拓（京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター，OHCA特別委員会委員）
2. レジストリへの参加方法：櫻井淳（日本大学医学部附属板橋病院 救命救急センター，OHCA特別委員会委員）
3. レジストリの内容：遠藤智之（東北大学大学院医学系研究科総合地域医療研修センター，OHCA特別委員会委員）
4. 登録の課題と工夫 演者未定
5. 来場者参加型オープンディスカッション

概要：

消防機関による院外心停止（OHCA）例の登録により、様々な知見が得られるようになった。しかし、現在のOHCA登録は病院前情報を中心であり、搬送先での初期診療と集中治療などの実績は明らかでない。今後は、搬送先到着後の診療データを、病院前情報と連結できる形で登録し、①予後予測因子の検討、②社会復帰率向上に寄与する治療体制・集中治療の検討等を進めていく必要がある。

日本救急医学会 救命救急法検討委員会では、『OHCAの病院到着後の基礎情報を登録する共通プラットフォームの構築』に向けて検討を重ねてきたが、このたび、学会主導研究としてOHCAの病院搬送後のレジストリを多施設共同研究としてスタートすることとなった。本レジストリの目的は、『心停止症例の蘇生に関わるデータを収集し、客観的な検証を行うことにより、心停止例の救命率を向上させること』であり、①PDSA（plan, do, study, act）サイクルに基づくマネジメント手法による、地域救急医療体制の改善の支援、②救急医療に関わる院内・院外データレジストリの集約と登録業務の軽減、③救急蘇生領域の臨床研究・疫学研究の促進、④客観的なデータに基づく参加施設へのフィードバック／ベンチマーキング、の4目標を掲げている。

レジストリを成功させ、目的を達成するためには、多くの救急医療関係者にレジストリの意義・目標をご理解いただき、幅広くご参加いただく必要がある。本企画を通じて、レジストリの現状と課題を共有し、皆様とオープンに議論を深めることで、OHCAレジストリの構築につなげていきたいと考えている。